

道守

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.45秋号

巻頭インタビュー

道守は人をつなぐおもてなし活動
「ほこみち」で地域に賑わいと豊かさを
森戸 義貴 (九州地方整備局長)

みちづくし in 竹田 2023

花咲くたけたー3つの輪ーこれまでこれから

九州風景街道 令和4年度

年間優秀活動表彰

玄界灘風景街道／九州横断の道 阿蘇くまもと路／
豊の国歴史ロマン街道

道守九州会議 設立趣旨

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄りや、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなどは整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えている。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。
さあ、新しい道に一步踏み出そう。



たけた竹灯籠「竹楽」(大分県竹田市)

CONTENTS

- 01 巻頭インタビュー
道守は人をつなぐおもてなし活動「ほこみち」で地域に賑わいと豊かさを
森戸 義貴 (九州地方整備局長)
- 02 みちづくし in 竹田 2023
開催地竹田市のみどころ
- 04 みちづくし in 竹田 2023
花咲くたけた
-3つの輪-これまでこれから
- 07 みちづくし in 竹田 2023
なぜ、私たちは道守を続けるのか
~これまでこれから~
- 09 みちづくし in 竹田 2023
現地体験学習
- 10 新・道守九州会議代表世話人に就任して
地域の活力と災害からの復興 —新時代を切り開く
塚原 健一
- 11 私たちの道守活動
- 14 九州風景街道 令和4年度
年間優秀活動表彰
- 16 わたしの好きな道
豊後街道 二重の峠
木村 晴香
- 17 道守人物伝・道守たちのトピックス・横顔・編集後記

表紙画：久富 正美
1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

YOSHITAKA MORITO 森戸義貴

九州地方
整備局長

道守は人をつなぐおもてなし活動 「ほこみち」で 地域に賑わいと豊かさを

局長は九州での勤務は初めてと伺っていますが、道守活動にどのような感想を持たれていますか。

森戸局長 私の母が鹿児島出身で、中学のころまで夏休みには鹿児島に里帰りしていました。父方の祖父が伊万里出身だと聞かされて育ちましたので九州勤務は初めてですが、ほぼ九州人です。

道守活動は、九州独自の取り組みだと聞いています。みち(道)は、そこに住む人々の生活や経済活動などに必要不可欠なもので、私達のように道路を管理する者と地域の方々が一体となって、道路清掃などロードクリン活動をしていたとき、道守の皆さんが各県内で連携し、それが九州内でも行政も含め協働されていることは、そこに暮らす人々にとっては、訪れる方々まで道を介して「人と人をつなぐ」おもてなしの活動となつていきます。地域づく

りにおいて、ますます重要な役割を担ってられると考えています。

道守活動には、出先事務所職員の方々にサポートしていただいているのですが、最近では、気軽に交流していただく方が増えて、とても助かっています。

森戸局長 私たちの仕事は、道路がその地域や利用する方々に安心・安全、快適性など、満足していただくことです。そのためには職員には地域の方々とフェイストゥフェイスで良好なコミュニケーションが取れるスキルを持つてほしいと考えています。道守活動などに定期的に参加することを通して、地域住民の目線に立つて行政を進められるような職員になってほしいと願っています。

道守の他に風景街道、道の駅はお互いに連携しながら活動を展開しようとしています。魅力的な九州を創出するためにはこれらの活動がどうあるべきとお考えでしょうか。

森戸局長 道の駅・日本風景街道・道守の3団体は、目的は違いますがそれぞれ得意分野があり、「道」を舞台とした多様な活動を通じて、地域づくりに大きく貢献していると痛感しています。それぞれの団体が、同じような

活動で連携し、行動し、情報発信をするなど、相乗効果により、魅力ある九州に寄与することになるよう期待しています。

高齢者や障がい者、ベビーカーを利用する若いお母さん達にとって安心して利用できる道のあり方が検討されており、その中の一つに「ほこみち」があり、長崎では4月に指定されました。今後どのようにしていくのかワクワクしています。

森戸局長 車中心で始まった道路行政が、歩行者に目を向けた政策として、「歩行者利便増進道路(通称「ほこみち」)という道路の魅力的な活用として歩道を拡げるなど歩行者中心で地域を豊かにする賑わいの空間を作り出す取組を進めています。

国道34号の長崎市桜町から万材町までを車道4車線から2車線にして歩道を拡幅する計画です。道路空間の再配分をして高齢者や障がい者などに安心して利用していただき、カフェや花壇などを設置して賑わいのある道路空間ができればいいですね。

各地で自転車の活用を推進されるようになり、都市部では自転車道の整備がされていますが、地方でもサイクリング道などへの関心が

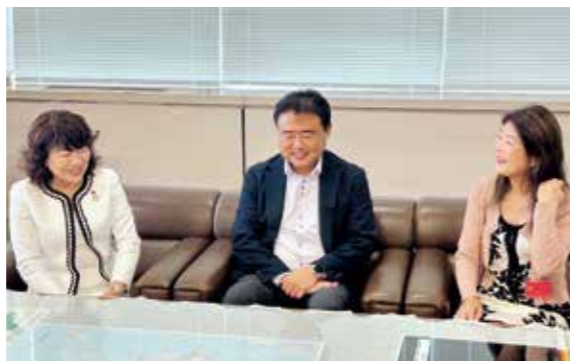
高まっています。九州で自転車活用を進めるための施策についてどのようにお考えでしょうか。

森戸局長 自転車は幅広い世代において利用されている交通手段であり、活用することで健康増進や環境問題の改善、災害時における交通機能の維持など、様々な効果が期待されると考えています。そのためにも、自転車が安全で快適に走行できる道路環境の整備が必要で、それぞれの通行空間が分離された安全で快適な自転車道を整備していかなければならないと思います。

また、自転車を活用し、自然景勝地や歴史の魅力の高い施設や観光資源と連携したサイクルツーリズムや基幹ルートが、47ルート設定されていますので、各地でもっと活用されていければと考えています。

道守活動について、今後はどのようにしてほしいと思われませんか。

森戸局長 九州の道守(活動)は行政と共に美しい道づくり・地域づくりに取り組むパートナーとして、素晴らしい取組みです。今後、道守活動、魅力ある道路の活用など行政とともにPRし継続的に発展していくよう協力して取り組んでいきたいと思っています。



プロフィール
もりとよしたか 昭和41年(1966)年9月26日生まれ。57歳。京都府出身。大阪大学大学院修了後、建設省に入省。関東地方建設局企画部企画課長、国土交通省道路局国道・防災課国道事業調整官、和歌山県国土整備部長、国交省大臣官房技術調査課長、国交省中国地方整備局長を歴任後、令和5年7月現職。

インタビュー
道守かごしま会議代表世話人 田島 直美さん
道守長崎会議代表世話人 牧 圭子さん

竹田市のみどころ

竹田市は、大分県の南西部に位置し、くじゅう連山、阿蘇外輪山、祖母山麓に囲まれた地にあります。東は豊後大野市と大分市、西は熊本県、南は宮崎県、北は九重町と由布市（庄内町）に接しています。また、河川では大野川の源流で、一日に数万トンの湧出量ともいわれる湧水群を誇る水と緑があふれる自然豊かな地域です。山々から湧き出る豊かな名水は、全国的にも知られ、下流域の多くの人々の生活を支えています。竹田市では、こうした大自然の恵みを活かした農業や観光が基幹産業となっています。



北原白秋歌碑(雨降り峠)

▶久住高原歌碑めぐり

昭和初期に多くの文人たちが久住高原を訪れて歌や詩を残しています。これは国立公園指定、登山のメッカへの動き、別府、くじゅう、阿蘇をつなぐハイウェイ構想などとともに、地域活性化の取り組みでした。その中で北原白秋らの代表作が、歌碑として20基ほど国道442号線沿い、久住高原ホテル内などに建てられています。ゆっくりと久住高原をめぐり、歌人たちが感動した大自然のすばらしさを味わってみてはいかがでしょうか。

●祖母山麓の名水、遺産巡り「たけたの水文化」を知ろう

▶祖母山

大分県と宮崎県にまたがる祖母・傾・大崩山系は、急峻な岩峰や数々の溪谷など独特の景観美と原生的な自然を併せ持ち、希少動植物の宝庫としても知られています。また祖母山系のふもとは湧水が豊富で、入田・長小野・河宇田湧水をはじめ、この豊富な湧水を活用した施設も多数あります。また昔より生活に欠かせない土木遺産も多く、明正井路六連橋、円形分水、白水ダムなど土木遺産もあります。近年は、河川を利用した中島公園河川プールや、もやし生産工場などもあり、自然、景観、産業、遺産など祖母山系の豊富な水にかかわる風景を堪能ください。



祖母山



音無井路円形分水

▶音無井路円形分水

昭和9年完成、円形分水は十二号分水とも呼ばれる。円形分水のできる昭和初期までは、三線の幹線水路に導入される水の分配で互いに反目し合い組合員が騒動を起こし、連日のように水争いが繰り返されました。この水争いを収める為、円形分水が施行され適正な分配ができるようになり、知恵の結晶ともいえる水利施設です。またこの水路は「音無井路組合」が、水神祭や周辺環境整備を含め長年に渡り管理しています。

▶後藤姫だるま工房

「姫だるま」は、旧岡藩（現竹田市）に由来する女だるまで、その背景には家運隆盛の象徴となった下級武士の妻「綾女」の物語があります。現在は後藤家のお嫁さんの手で大切に受け継がれている伝統工芸品として、ただ1軒のみで製作され、江戸時代から変わらぬ材料を使った手仕事は竹田市の無形民俗文化財に指定されています。



姫だるま

●道の駅、グルメ、農産物

▶道の駅

市内には、道の駅たけた、道の駅ながゆ、道の駅すごうの3か所があります。国道57号沿い『道の駅すごう』は、長年、地元やたくさんの観光客から慣れ親しまれてきた竹田ドライブインが竹田市の玄関口として、より快適に交通の要所としてご利用いただけるように生まれ変わりました。



道の駅すごう

▶グルメ、農産物

竹田市は、全国で約8割の生産を誇る「サフラン」や「花き」栽培の盛んな産地です。また、西日本有数のトマト産地として「赤採りトマト」のブランドは有名です。そのほか、「三笠野」「荒城の月」など竹田銘菓として知られています。



お菓子 三笠野、荒城の月



花 サフラン



農産物 赤採りトマト

●岡城跡・城下町を歩き歴史文化を感じよう

▶国指定史跡 岡城跡

周囲を囲う断崖絶壁、その上に築かれている石垣群から、難攻不落の堅城と謳われる岡城は、1185年に源義経を迎えるために築城されたと伝えられています。南北朝期から戦国期までは志賀氏の支配下であり、江戸時代には中川氏の居城として重要な役割を果たし、築城から廃城まで800年に及びました。現在は石垣しか残されていませんが、春の桜や、秋の楓・紅葉シーズン、美しい石垣や素晴らしい景色を眺めながら、城内を歩いてみませんか。



国指定史跡 岡城跡の紅葉

▶城下町(竹田市歴史文化館 由学館)

難攻不落の城として名高い岡城。その城下町に「竹田市歴史文化館・由学館」があります。城下町の通りの建物は、白壁と竹格子が組み合わさった長い塀のようにデザインされ、外壁を飾る竹の格子は館内にも延長されています。館内には、国史跡「岡城跡」に関する情報を提供する「岡城ガイダンスセンター」、様々な文化芸術活動の発表の場「市民ギャラリー」、企画・特別展を開催する「特別展示室ちくでん館」などがあります。また国史跡「旧竹田荘」・画聖堂等や歴史文化館など、このエリア一帯を歴史回遊空間として楽しむことができます。



竹田市歴史文化館 由学館

●久住高原とくじゅう花公園



くじゅう花公園「春彩の畑」。約12種類の花が咲き、5月には「ネモフィラ」「ハナビシソウ」が見られる。

▶くじゅう花公園

久住高原は、花を見て安らぎを覚え感動を与える場をつくりたい、大自然に囲まれて非日常的な世界を感じて頂きたい、との思いから平成5年8月に「くじゅう花公園」が誕生しました。敷地面積は22万平方メートル（東京ドーム7個分）。春から秋にかけて約500種500万本の花々が咲き誇ります。

平成17年8月には日本観光協会主催（後援：国土交通省）の、最も優れた実績と将来計画を有する施設に贈られる「花の観光地づくり大賞」としてくじゅう花公園が選ばれました。

令和5年で30周年を迎えた「くじゅう花公園」、ゆっくり、ゆったりお過ごしください。



みちづくし in 竹田 2023

花咲くたけた

～3つの輪～これまでこれから

【第一部】トークセッション

道守はこれまで道を舞台に、通りに彩りを与え、共同作業の喜びを体感し、互恵意識で結ばれたコミュニティの場を形成してきました。

第1部では、「仲間との“つながり”が、新しい可能性を生み出す」をキーワードに、地域の特徴を活かし、地域を活性化するために大分県内で日々活躍されている方々に登壇していただきます。それぞれの知見をヒントに、あるべき姿に向けた道筋を探求し、“気づき”に繋がるトークセッション。

テーマ1

「花咲くたけた運動」

竹田市内は、道端に花壇を作る会が点在し、種を作る人、苗を作る人、植える人、それぞれみなさんが思いを込めて作っています。一方、久住高原では古くから、野山を草地として継続的に利用するために「野焼き」を行ってきました。山野草の季節が訪れた頃には、野焼きした草原に緑が広がると、あちこちで可憐な花が咲き誇ります。

花は花でも、いろんな花があります。竹田式「花咲くたけた運動」を取り上げ、道守のみなさんと共有し、道守活動に彩りを与えられるような話をしたいと思います。



女性の会による57号沿いの草取り



堀 幸子氏 中九州横断道路早期完成を願う女性の会
渡辺 勝三氏 Cafe BoiBoi
春田 義信氏 道守大分会議



3月頃に行われる野焼きは、春の訪れを告げる風物詩

テーマ2

「3つの輪」

道守大分会議では、前回みちづくし in 大分 2014の大会宣言で「3つの輪」の連携を謳いました。この10年、この宣言に基づき、道の駅や風景街道と連携を図りながら活動してきた成果を紹介します。

道守の活動趣旨を理解して、一緒に活動してきた道の駅の皆さんが道守活動を通じて感じたこと、未来に発展できることなど、「3つの輪」のトークから、他県への拡がりを提案します。



後藤 節子氏 道の駅みえ 駅長
大久保 慶氏 道の駅ゆふいん 駅長
和田 猛氏 道の駅すごう 店長



ガザニア・サルビアなど、高山でも咲くお花を植えました



道の駅の日清掃活動後、菅尾小学校の児童やボランティアの皆さんと集合写真

発足20年目を迎えた道守の目的とは何か!?

「これまで」20年間、“道を舞台”に地域を愛し、実践してきた道守が、いかなる役割を果たしてきたのかを検証します。積み重ねてきた経験を活かし、地域の様々な主体が連携し多様性に富み、「これから」柔軟で強靱な地域社会を創造するために、「わたしたちの役割」を整理し、「みんなの未来」をディスカッションします。

また、大分大会は3巡目となり、開催地は大分県の地方都市「竹田市」。竹田市は、熊本県と宮崎県に接する大分県の南西部、九州の中央に位置する「阿蘇くじゅう国立公園」内のくじゅう連山・阿蘇山・祖母山・傾山などの1,000m級の雄大な自然に囲まれた地域です。

そんな竹田市で「みちづくし」を開催するにあたり、大きな声をあげたのが、道守大分会議発足当初から活動を続けてきた堀幸子さん。「竹田市の過疎化を止めるには中九州横断道路の早期完成が不可欠」と、20年前から国交省や国会への要望提出、学習会を続けてきました。3巡目のみちづくしの開催は「竹田で出来る事を証明し、竹田の良さを知って頂きたい!」という熱い思いが皆を動かしました。

【1日目】交流会・交流集会

開催日：令和5年10月27日(金)
会場：竹田市総合文化ホール グランツたけた
交流会：13:30～17:30
トークセッション・シンポジウム・大会宣言など
交流集会：18:00～20:00

【2日目】現地体験学習 (A・B・Cの3コース)

開催日：令和5年10月28日(土)
8:30～12:00
詳細は9ページに掲載



会場のグランツたけた

みちづくし in 竹田 2023

花咲くたけた

～3つの輪～

これまで
これから

道の駅 HOPE 道守九州会議

3つの輪

白水の滝 久住高原

2023 (令和5年) 交流会・交流集会

10/27(金) 竹田市総合文化ホール グランツたけた

【受付】12:30～【交流会】13:30～17:30【交流集会】18:00～20:00

10/28(土) 現地体験学習会 ～感動のバイウェイ竹田を満喫～

Aコース：岡城跡・城下町を歩き歴史文化を感じよう
Bコース：久住高原と先人の見た風景に触れよう
Cコース：相峰山麓の名水、道産産物、たけたの水文化を知ろう

主催：「みちづくし in 竹田 2023」実行委員会
共催：道守大分会議、国交省九州地方整備局、大分県、竹田市、(一社)大分県みちづくり協会
後援：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、大分県、九州道守協議会、九州「道の駅」連絡会

〈登壇者のプロフィール〉



桑野 和泉氏

平成16年の道守大分会議設立以来、代表世話人。「由布院玉の湯」代表取締役社長、観光・温泉を活かしたまちづくりの先駆者。ツーリズムおおいの初代会長、由布院温泉観光協会会長などを歴任。



岡本 博氏

道守会議創設時に九州地方整備局道路部長。九州地方整備局長を経て、国土地理院院長。2018年から日本道路交通情報センター副理事長。



樗木 武氏

道守九州会議前代表世話人。昭和14年、福岡県生まれ。昭和37年九州大学工学部土木工学科卒。平成14年同大学を退官し、名誉教授となる。退官後は、道守九州会議の設立に貢献し、また現在、(一社)日本風景街道九州ネットワーク代表理事など。

道守、温故知新
20年を振り返り

シンポジウムでは、各県から登場していただき、「これまで」の20年、実践してきた道守活動が、地域でいかなる役割を果たしてきたのかを紹介いたします。
また、これまでの経験を活かし、地域の人々、団体、グループと連携し、「つながり・ひろがるこれから」をディスカッションします

【第一部】シンポジウム

「なぜ、私たちは道守を続けるのか」
〜これまでこれから〜

これまで20年の活動
〜つづける・ひろがる〜

司会：桑野和泉氏（大分）
登壇者：山田三代子氏（福岡）
渋谷里美氏（佐賀）
牧圭子氏（長崎）

福岡



山田 三代子氏
（プロフィール）

道守ふくおか会議代表世話人
道守柳川ネットワーク代表世話人

35団体700名に成長

福岡県南地域の道守は、市民と行政との協力が特徴です。平成16年に発足した道守柳川は、福岡国道事務所有明海沿岸道路出張所（現 有明海沿岸国道事務所）の力強いバックアップと、道守の活動趣旨に賛同した市役所との三者連携で非常にうまくスタートできました。
「できる人が、できることから」を合言葉に13団体210名で出発し、徐々に道守活動の輪が広がり、20年間で、35団体700名の活動に成長しています。

これまでの主な活動は、ふるさと柳川を美しくするとともに気持ちよく柳川を訪れていたきたいという思いから、清掃活動や道に関する勉強会、まち歩き、道路工事現場の見学会、ゴミ分別の講習会や初心者向けの樹木剪定研修などを行っています。このような市民と行政との協働による道守活



岡城の二の丸跡に立つ
滝廉太郎銅像(朝倉文夫作)



竹田市・岡城跡本丸跡



武家屋敷通りから町の奥に入った洞窟にある
キリシタン洞窟礼拝堂

後藤 篤美氏

竹田キリシタン
研究所 所長
竹田市観光
ツーリズム協会所属

桑野 和泉氏

みちづくし
in 竹田 2023
実行委員長

土居 昌弘氏

竹田市長

動が、近隣地域の大川・大牟田・久留米・うきは・みやまに広がりを見せたことは嬉しい限りで、この20年間を大切に今後とも成長しつづけていきたいと願っています。

佐賀



渋谷 里美氏
（プロフィール）

平成14年発足「道を研究する会」
ロードネット佐賀「代表」平成15年
「特定非営利活動法人 活気全
理事、食育部会（保育園児等）」「佐
賀のお茶教室」を開催、平成16年
発足「道守佐賀会議」代表世話人

『道を研究する会ロードネット佐賀』
から、『道守の活動』へ

ロードネット佐賀では、女性団体や各市町の首長、関係機関に呼びかけ、地域の特産物、自慢料理を持ち寄り、食事をしながら、「道に関する問題点」を出し合う「くるま座だんぎ」を平成20年までに13市町で開催しました。

「有明海沿岸道路が出来れば、親の介護に熊本までいつでも行けるので助かります」との声、17年には佐賀城本丸歴史館で「くるま座だんぎ」を開き、ある道の駅長より、「身障者駐車やパーキングバミットの設置提案」があり、国の機関も同席されていたので、すぐに取り上げて頂きました。

次に17年から「地域の活性化」「街の美化活動」「道守活動の普及」を目的として、「佐賀城下ひまつり」での清掃活動を始めました。最初は60名くらいの参加でしたが、年々増え現在では150名くらいで、親子づれ、企業、団体等から

電車

JR豊後竹田駅から：徒歩20分、
タクシー5分

バス

竹田市コミュニティバス・大野竹田バス
「グランツたけた」下車すぐ

アクセス

▶車
大分市内から約60分
福岡市内=大分米良ICから約160分
阿蘇から約45分
高千穂から約90分

グランツたけた
駐車場
200台



長崎

牧 圭子氏
（プロフィール）



平成17年より、道守活動に参加。
平成25年より、道守長崎会議代
表世話人に就任し、道路の清掃
や花植え等の地道な活動を続け
ている県内各地の道守さんをリ
ドしている。

道は自分たちで守ろう
続けてきた活動

道守長崎会議は、2004年8月28日に発足しました。当時の代表である阿野史子さんは「活動グループのネットワークを作って活動を支援すると共に、道を守り育てることに関心を持つ人を増やしたい。」と設立趣旨を述べています。阿野さんのもとに、道に関する様々な取組みをされている方が集い、自分たちの道は自分たちで守ろうと道の清掃、花植え等、地道な活動を続けています。活動を続ける中で資金の問題ができました。そこで、阿野さんは、道守活動がスムーズに運営できるようにと2009年にNPO法人道守長崎を設立しました。これにより、継続した道守活動が可能になりました。また、阿野さんは、発足当時から県、市の現役幹部を構成メンバーに加えて行政との連携が取りやすい環境を作り出した。このような状況の中、道守さんたちは、この20年で活動の幅を広げました。次世代を担う子供たちへの食育、活動を共にする中で築く人との絆が防災に繋がり、スポーツを介して道守への関心を高める等、若い世代を巻き込んで、今後も活動は続いていきます。

みちづくし in 竹田 2023

現地体験学習 10月28日(土)

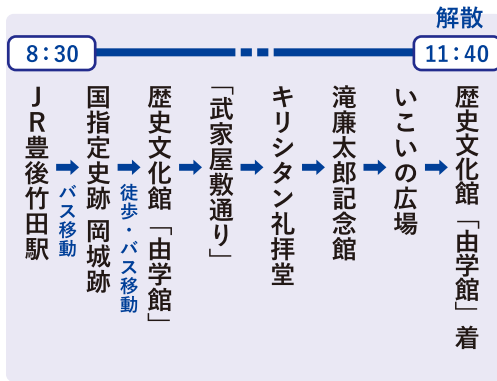
～魅力のバイウェイ～竹田の魅力、存分に体感していただきます
 地元のボランティアガイドさんが案内するので、竹田をもっと好きになること間違いなし
 参加できなかったコースについては九州地域づくり協会とみちづくし in 竹田 2023実行委員会で作成した
 ガイド本をみちづくしで配布しますので、別の機会に訪れてください

Aコース 岡城跡・城下町を歩き歴史文化を感じよう

竹田の城下町は周囲を切り立った山に囲まれており、トンネルを通らないとアクセスできませんが、歩いて周るのにちょうどいい広さの城下町で、ゆっくり歴史の建造物や石畳の道を楽しむことができます。キリシタンの歴史、竹田出身の滝廉太郎、現代建築家・隈研吾氏の設計した建築など、文化高い竹田を知ることができるコースです。



岡城址

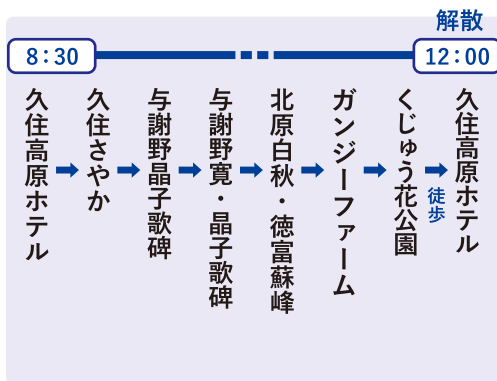


Bコース 久住高原と先人の見た風景に触れよう



くじゅう花公園

久住高原の四季の移り変わりを数多くの詩人が歌を残しています。北原白秋、与謝野鉄幹や晶子などの先人たちが見てきた風景と、今を生きる私たちの風景を見比べながらガイドとともにバスで巡ります。

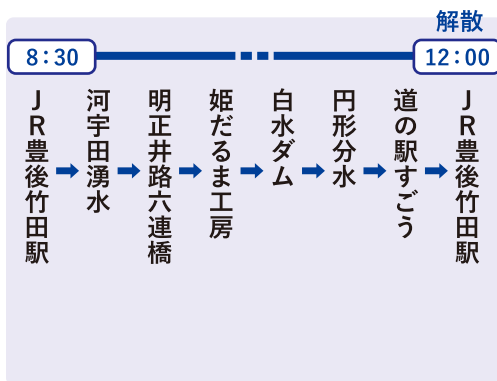


Cコース 祖母山麓の名水、遺産巡り「たけたの水文化を知ろう」

名峰祖母山麓一帯に位置するこの地域は原生的かつ神秘的な山々、湧水の恩恵を受け広がる田園地帯、古から受け継がれる豊かな場所です。今回、水をめぐる歴史や土木遺産、姫だるま工房をバスで巡るコースとなっています。このコースは、道の狭さもあり限定20名とさせていただきます。



白水ダム 提供：一般社団法人九州地域づくり協会



第3回「つながる・ひろがる」プロジェクトを8月5日に阿蘇の南小国町瀬の本で開催しました。70名以上の方にご出席いただきました。やまなみハイウェイの観光道路を舞台に熊本県と大分県がつながり3回目で九州の道守さんと風景街道で活躍している人へひろがっていくこと実感しました。初めに玉川孝道さんが基調講演。九州の屋根九重連山に源を持つ筑後川水系について貴重なお話でした。今回は宮崎県や福岡県、長崎県の道守活動されている方や風景街道で活動されている方にも実践発表いただきました。環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所三宅悠介所長からくじゅう高原の路上駐車に対しての期間無料バス試験運用したことや報告や今後の課題提供いただきました。大分河川国土地務所平野篤さんからはくじゅう高原バス時刻表を各バス会社から取り寄せ全体のバス利用者の利便性を考えてバス時刻表作成することにより路上駐車が緩和されている報告がありました。立場の違いはありますがつながってそれぞれの意見や活動を知ることが大切であると実感しました。

「つながる・ひろがる」プロジェクト報告



阿南誠志氏 (プロフィール) 道守くまもと会議 世話人

東九州道、日南東郷道の開通の喜び



日高茂信氏 (プロフィール) 日南海岸地域センターックバイウェイ推進協議会会長、道守みやざき会議副代表世話人、宮崎県地域づくりネットワーク協議会顧問

令和5年3月25日、待ちに待った東九州道の清武南・北郷間が開通し、宮崎日南東郷間が飛躍的に時間短縮しました。それに伴い県南の観光地も明るく輝いて行けると思っています。私は日南市の「道の駅酒谷」の運営に関わっていますが、開通後、すぐ感じたことは、以前に増して大分ナンバーの車を目にするようになりました。これが効果の表れかなと感じたところです。特に国定公園である日南海岸は交流人口が増えたと友人が笑顔で話してくれました。この効果は、素直に喜ぶとして、これを継続していくためには、この県南の宝をいかに光り輝かせるか、住民であるわれわれの責任ではないでしょうか。日南・串間市には他に誇れるものがたくさんあると思います。日南海岸線の景観・野生馬の都井岬、食といえば新鮮な魚・マンゴー・金柑をはじめとする柑橘類の豊富さ、あればきりがいいこんな地域に思われた私は幸せ者だと誇りに思っています。しかし、この高速道もようやく日南までという状況です。これから志布志まで開通してこそ循環ができるようになり効果が高まるので一日でも早い完成を願い「さらさら南」への延伸を期待しています。

道守20年を契機に道守の輪を広げたい



田島直美氏 (プロフィール) 道守かごしま会議代表世話人、薩摩よりみち風景街道協議会会長、薩摩川内市民活動ネットワーク代表

道守かごしま会議が発足してあつという間に20年が経ちました。4年間にも及ぶ新型コロナウィルスの影響で行動制限はありましたが、それぞれの団体では美化活動や花植活動を工夫しながら継続してきました。コロナとの戦いも一段落しましたが、社会経済状況の大きな変化に人々の価値観も多様化し、発想力が求められる新たな時代となりました。たとえ時代は変わっても、道守の人とひとを繋ぐ道を愛し、花を愛で、掃き清め道を愛する気持ちには変わりはありませぬ。さて、そんな私達ですが20周年を契機として新たな活動を考えております。今までは地域のイベントにタイアップすることで道守の輪を広げましたが、これからは道守会員がいない地域や、様々な道守活動の裾野を広げ、幅の広い道守活動の展開を試みるという事です。地域に対する誇りと愛着を原動力に連携して活動することで、多様な団体とさらには風景街道とも繋がりが、道守活動がより大きく広がると期待しております。

「共同作業の愉快さを取り戻そう」



加藤千明氏 (プロフィール) 日本風景街道「おいた海」の道推進協議会事務局長、NPO法人日本風景街道コミュニティ理事、道守大分会議世話人

「私たちは何のために、道守活動をやっているのか」という最も基本的な問いかけが、活動を行う時には、極めて重要だということには言ってもいい。 「共同作業の愉快さ」という言葉がある。本来人々は近所の隣人や旅人をもてなし、道を通じてコミュニケーションを図り、自主的に共同で保全し、花や街路樹を植え、道祖神を祀り、道に感謝し、日々の生活を豊かにしてきたという歴史を持つている。 本来、道の清掃や花植は「楽しく愉快」なはずなのに、現在では「一斉清掃日」や「道路美化」という固いお役所言葉がババを利かしている。これは愉快どころか「共同作業の不愉快さ」だ。しかも「役所に金がないので皆さんの力で」というオマケの言葉まで付けて。 結論を言えば、私たち道守活動は、本来住民による道を通じた「共同作業の愉快さ」を取り戻す運動だと考える。そして、その志をもった活動を色々な組織が連携してひろげることが「これからの道守」だ。さあ、一緒に「道守の愉快さ」を。花咲く竹田から。

これから つながる・広がる

宮崎

鹿児島

大分

プロフィール

KENICHI TSUKAHARA
塚原健一

1962年生まれ、幼少期より国道事務所勤務の父親に連れられ大分、鹿児島、福岡、佐賀の国道沿いで育つ。九州大学土木工学科卒業後、日本とアジア各国の社会資本整備に従事し、2011年から九州大学大学院教授。



この度、榑木武先生の後を受け道守九州会議代表世話人を就任しました九州大学土木工学科の塚原健一です。道守通信の紙面をお借りして一言ご挨拶申し上げます。

私が道守九州会議の活動に参加したのは2011年で、2003年の設立から活躍されている先輩の皆様と比べるとまだまだ若輩の部類ですが、私なりにこの12年の間にも道路と地域の関わり方が少しずつ変わってきていると感じています。それは災害と地域の活力の減少です。日本中が東日本大震災からの復興の道を手探りで進んで行く中、九州では2012年九州北部豪雨、2017年016年熊本地震、2020年球磨川九州北部豪雨、2020年球磨川

水害と、自然は私たちに次々と試練を与え続けています。また2020年から3年続いたコロナ禍は、ただでさえ全国的に見ても過疎化が進行する九州の地から活力を奪い続けました。このような状況下で代表世話人のバトンを渡されたことに大きな責任を感じています。

私は大学で土木工学を教えています。学生達が夢と希望を持ってインフラ開発や地域開発の世界に進むよう背中を押して行くことが仕事です。「日本は人口が減少するから、経済が縮小するからインフラはもう不要だ」、「地元の県は活力が無く大変なので都会に就職して楽をしよう」と学生に思わせるようでは教員の敗北と考え、教える内容を工

夫しています。それは道守活動にも共通することだと考えています。人口減少・高齢化は避けられなくとも、それに対応した地域の活力を維持する方法はあるはずで、災害の頻度が増えてくることは温暖化の影響で避けられなくとも地域の復興は工夫次第で可能はずです。みちづくし in 阿蘇で宣言した、「私たち道守は、地域復興に貢献します」、「私たち道守は、全力で新時代を切り開きます」を実現するために、少しでもお役に立てるよう全力で頑張つて参りますので、道守の皆様そして道守に関係する皆様のお力をいただきますよう、今後ともよろしくお願いたします。

私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介いたします。

地域からの報告 宮崎

道守みやざき会議

郷土・宮崎を公園のように美しく 「道楽会議」を立ち上げて

道守みやざき会議は、73団体 約7500人の会員で構成されており、県内各地で活動しています。宮崎県では、県土全体を公園のように美しくする「全県公園化構想」のもと自然景観を守りながら美しい郷土づくりに取り組んできた歴史があります。既に戦前から宮崎交通(株)の取組によって日南海岸の国道沿いに修景美化のための植栽が行われることも

に、1969年には全国に先駆けて「宮崎県沿道修景美化条例」が制定され、官民が連携したロードパークづくりが進められてきました。コロナ禍に伴い、県内各地の道守活動も様々な制約を受けていましたが、昨年度は新たな動きに取り組み始めました。その一つが道守・風景街道・道の駅の三者連携を強化することです。そのため三者連携の場として通称「道楽会議」を立ち上げ、意見交換と連携の場を確立しました。また、本年度の道守みやざき会議の総会では、重点および防災道の駅の指定を受けた「道の駅都城」様から最近の取組についてもお話しをいただいております。現時点で県内の多くの道の駅に道守会員となつていただいております。また、毎年宮崎大学にて開催される日本風景街道大



三者連携「道楽会議」



道守みやざき総会「道の駅都城」取組紹介

学についても連携・協力しながら活動をしてい

ます。二つ目の取組が学校との連携です。道守活動も高齢化に伴う後継者の確保が課題とされてきましたが、今後の活動をすすめるうえで学校との連携を重視したいと思っております。今年1月には、「道の駅くしま」で県立福島高校の皆さんと植栽活動と周辺の清掃活動を実施しました。この活動は、日本風景街道大学のエクスカーシヨンのなかで実施しました。学校との連携を通じて道守活動がこれからさらに広まるように取り組んでいきたいと思っております。

今年10月には、日南市内に県内19番目の道の駅となる「道の駅くまごう」が開設される予定です。県内でも地域づくりの拠点として道の駅は大きな期待が寄せられています。私たち道守活動も道の駅との連携を強化しながら、美しく、そして活力あふれる郷土づくりに貢献できるように取り組んでいきたいと思っております。

私たちが、以前より道守活動に参加する皆さんを「道守さん」と「さん」付けをしてお



道の駅くしまで、県立福島高校の皆さんとパンジー・ビオラの植栽



植栽の説明に耳を傾ける高校生と道守さん



植栽後の集合写真

ります。活動される道守さんに敬意を持ち、これからも多くの皆さんに参加いただけるよう取り組んでいこうと思っております。
(道守みやざき会議 代表世話人 根岸裕孝)

福岡



道守ふくおか会議 (福岡市)

やつと笑顔あふれる総会を開催!

令和5年7月5日「毎日暑いね、元気やった?」と明るい声が弾む中、道守ふくおか会議の総会を開催しました。
 コロナ禍でやや縮小傾向の活動実績報告が進む中、各団体からは、「活動の継続や仲間の拡大や新たな団体の掘り起こしをしたい」などの前向きな意見が多く聞かれました。また、今年度は総会開催後に懇親会も実施。昼の会議では聞かせられない裏話や、苦労話などがたくさん出てくるなか、「懇親会があつてこそ道守の楽しさやね」と本音の声も聞かれました。
 福岡県は、九州会議の中でも最も多い会員の皆さんが活動しています。「北九州道路サポーター」や県南の自治体ごとの「道守ネットワーク」の活動等、広域ならではの活動を展開しています。(164団体・個人/17100人 ※R5・4現在)
 道守ふくおか会議では、関係する行政の支援や連携を更に充実させ、参加する皆さまが笑顔あふれるような、より楽しいものになるようにしていきたいです。
 (道守ふくおか会議 代表世話人 山田三代子)



ふくおか会議総会後の記念撮影

熊本



阿蘇坂梨宿場会 (阿蘇市)

参勤交代の道や家並み 歴史ある風景を残すために

私たちの阿蘇市坂梨地区は国道57号線滝室坂登り口にあります。現在約5キロの滝室坂トンネルが掘り進んでいます。
 坂梨地区は400年も前に肥後国(熊本)の殿様が江戸の行き帰りに使った参勤交代の道として栄えたところです。現在では国道57号線道路も住宅地を離れているために坂梨地区道路はさびれてきました。そこで30年前から阿蘇坂梨宿場会を坂梨地区有志で立ち上げ宿場としての活性化と環境美化に取り組みました。参勤交代時代の家並みや土塀などの保存、告知板の設置、道路の美化活動など坂梨地区全員で取り組んでいます。



豊後街道坂梨宿



坂梨地区の美化活動

癒される歴史の道探訪などに道守みなさんがお越しになること願っています。
 (阿蘇坂梨宿場会会長 赤星永幸)

佐賀



都紀女加王墓と古墳公園を守る奉仕団 (上峰町)

行政との連携で歴史と環境を守る

私たち「都紀女加王墓と古墳公園を守る奉仕団」は、平成27年11月に佐賀県と上峰町から『チャレンジ交付金』を受けて設立しました。千五百年前(第15代応神天皇のひ孫 都紀女加王 が5世紀中頃に都から派遣され、この地「帯を治めた」から存在する皇族の御陵(宮内庁管理)と古墳公園を「町の宝」として守り、環境美化、生きがいづくり、健康維持の趣旨のもとに活動している奉仕団員30名です。
 都紀女加王墓と古墳公園の県道沿いの黒プラント(ゴミ手袋リサイクル)に春は黄色バンジー、秋は赤サルビア(上峰町花)を植えています。公園内の除草作業と合わせて毎月第三日曜日に「時間程度活動しています。現在、合同会社『つばきまちづくりプロジェクト』で上峰町中心市街地開発事業が進行中で、この事業地の南側県道沿いに、東京都大島町より寄贈された「ツバキ」22本を植樹し、周囲の除草作業も実施しています。
 上峰町地酒(鎮西八郎酒)づくりにも、天吹社と奉仕団で、十月〜一月に醸造し、七年目となり、ふるさと納税返礼品として上峰町で活用してもらっています。(事務局 礎勝征)



道路作業班は県道沿いの歩道周辺(植樹された椿周辺)まで丁寧に清掃しています。



作業後「町の宝」古墳公園にて、疲れ知らずでみんな爽やか! 上峰さいこう!

大分



道の駅ゆふいん (由布市)

「道の駅の日」に3つの輪。 清掃活動・防災教室・花植え



清掃活動後、道の駅ゆふいんの前で集合写真

道の駅ゆふいんは、大分自動車道の【湯布院IC】を降りた目の前にあります。眼の前に由布岳を望み、観光へと出かけられる方々の玄関口として幅広く利用されています。
 今年の4月「道の駅の日」に、3つの輪(道の駅・道守・風景街道)で一斉清掃活動を行いました。せっかくなので、清掃活動の後に、地域の子どものちや、近隣の方に防災拠点となつている道の駅ゆふいんの施設を知っていただきたく防災教室を企画し、防災時の道の駅の役割を伝えました。また、国土交通省が保有する災害対策車両など、普段見かけない車両の試乗体験も行い、子どもたちにとっても珍しい体験ができました。最後には、由布岳をバックにガーデニングのプロによる指導のもと、花壇作成を行いました。平日にも関わらず、地元企業、県警など日頃からお世話になっている100名近くの方が集まっていたとき、駅内はもうもちろん、隣接する210号も綺麗になりました。(道守大分会議事務局)



試乗体験

長崎



諫早清掃愛護クラブ (諫早市)

私たち一人一人の力で美しい地域づくりを!

諫早清掃愛護クラブは、毎月第四土曜日に道路、河川、海岸、港湾を対象に清掃・美化活動を実施しています。「会員要件なし」、「活動参加は自由」を運営方針に、参加者はマイペースに作業しています。
 活動区域は、「琴の湖」と愛称される大村湾の南東側奥部に位置する諫早市と大村市の沿岸域で、五本の二級河川の流入があり、近年、工業団地やスポーツ施設の整備、宅地化が進む一方、海や河川の水域環境が長年懸案となつています。私たちの清掃作業において、海岸等から大量の漂着ゴミが回収されることがあります。団体が発足し二十年経過しますが、諫早市ボランティア連絡協議会に加入し、フェスティバルやパネル展、広報誌などで活動紹介しており、行政等が主催する行事へも参加してきました。その結果、民間企業の職員やご家族、学生の方へと参加者が拡大しています。
 今回、私たちの団体は、令和五年度「地域環境美化功績者」として環境大臣表彰を受賞いたしました。これを励みに、「地域の環境保全」と「よりよい地域づくり」を目指して、今後も積極的な活動を展開したいと思います。(世話人 村瀬弘幸)



道路護岸の清掃



工業団地内諫早市道の清掃

鹿児島



三州技術コンサルタント(株) (鹿児島市)

道守活動で地域社会の発展に寄与する。

三州技術コンサルタント(株)は、総合建設コンサルタントとして官公庁の発注する公共事業を中心に、地域における社会資本整備の担い手として道路、河川の測量・設計、インフラ施設の維持管理等、多岐にわたる業務に取り組みしております。
 道守活動は、平成21年に国のボランティア・サポート・プログラムと協定を結び、国道3号平田橋交差点から伊敷方面の約600mの歩道を年3回程度、清掃を行っております。
 地域住民の美化意識が高く、ほとんどごみは落ちていませんが、バス停の付近などが留まる箇所やタバコの吸い殻が多く、道路利用者のマナーについて考えさせられ、道守活動を通じて社内マナー向上にも繋がっていると感じております。

これからも、「技術と英知を結集して地域社会の発展に寄与する」という弊社企業理念のもと、地域の方々に貢献し信頼される会社を目指す為にも道守活動への参加をさせていただきたいと思っております。
 (業務管理部 永田知士)



清掃活動中(H24、12月撮影)



清掃後の集合写真(R4、12月撮影)

九州風景街道令和4年度 年間優秀活動表彰

令和4年度の年間優秀活動表彰

九州風景街道では、年間取組の中で地域の魅力を発掘、維持、発展させ、地域の人々へ魅力を提供する内容となり、その取組が当該ルートばかりでなく、他ルートの更なる取組を促すことを目的として、毎年、優秀な活動を実施したルートを表彰しています。令和4年度年間優秀活動表彰として、玄界灘風景街道、九州横断の道阿蘇くまもと路、豊の国歴史ロマン街道の3ルートを表彰しました。

玄界灘風景街道

◆歩く唐津街道の旅の開催及び標識の新規設置

玄界灘風景街道では、ウォーキングイベントを通じて、地域の貴重な資源である街道遺産の魅力を参加者に楽しんでもらい、訪れた先での地域交流と参加者の健康・学習・仲間づくりを推進しています。

歩く唐津街道の旅の開催及びルートを示す標識の新規設置は他地域の人々へ魅力を提供する内容であり、来訪心をそそる取組である点などが評価されました。

さらに、歩くだけでなく、資源マップ・参加グッズの制作・販売、他ルートとの交流ウォーク、ゴミ拾い活動、標識設置活動などに取組んでいる点が高く評価され、令和4年度手作り郷土賞も受賞しました。



歩く唐津街道の旅150回記念

九州横断の道阿蘇くまもと路

◆やまなみハイウェイ美化活動の実施及びパネルディスカッション

九州横断の道阿蘇くまもと路では、現国立公園の中にある「やまなみハイウェイ」の景観を守るため、美化活動を通して、地域の活性化に寄与する活動を展開しています。大分県・熊本県にまたがる「やまなみハイウェイ」

（県道11号）で3つの輪（風景街道、道守、道の駅の連携）で清掃活動を実施（令和4年10月15日（土））し、約200人が参加いたしました。清掃後には、「やまなみハイウェイを守る」と題してパネルディスカッションを実施し地域の成り立ちについて学びました。やまなみハイウェイ美化活動の実施及びパネルディスカッションは地域の魅力を発掘、維持、発展させる取組であるとともに、他地域の人々へ魅力を提供する内容になっている取組である点などが評価されました。



やまなみハイウェイ美化活動に集まった200人の参加者



活発な意見が交わされたパネルディスカッション

風景診断の手引きを作成

風景診断

風景診断は現地において、風景の成り立ちや歴史について見つけ直すことで地域の魅力を発見・再確認し、現状の課題の解決、地域の持つ魅力のさらなる向上に向けた対策について意見交換会を行うものです。

今後は、各ルートへの展開を目指しており、診断実施の際の指標となる「風景診断の手引き」を作成いたしました。風景診断の手引きは、風景診断のねらいや取組みの流れ、留意事項などを整理しており、ルート内で意見交換等の交流を行うことで、連携促進、ルートの更なる発展を目指しています。

豊の国歴史ロマン街道

◆中津街道史跡探索ウォークの開催

豊の国歴史ロマン街道では、徒歩で街道を探索、歴史を体感すると共に、地域資源の活用方法を探ることを目的に活動を展開しています。

新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いた令和4年9月より毎月1回のペースで開催し、JRR日豊線沿いに、区間を分けて歩き、史跡の探索

を行い、その後参加者で意見交換会や講演会を通して、地域資源の歴史的価値やすばらしさを再認識しています。

中津街道史跡探索ウォークの開催は地域の魅力を発掘、維持、発展させる取組であり、他地域の人々の来訪心をそそる取組である点などが評価されました。



探索ウォーク史跡での説明



歴史的価値を再認識した意見交換会



風景診断の手引き



風景診断の手引き

風景診断の考え方

- 1 ふるさとの土地を理解
 - ・皆で現地を見て、議論する
 - ・自然・地形・歴史・文化などの観点から紐解く
- 2 風景の健康診断及び治療
 - ・除草や清掃など
 - 症状への対症療法
 - ・棚田や草原の維持管理など
 - 体質改善

地域への恩返し
循環型の環境維持活動を目指して

有明ボカシの会長 荒木 光義さん

仕事を定年退職して「さあ何をしよう」と考えたとき、ふとこう思いました。今まで生活できたのは公共工事の仕事ができていたおかげである。皆様の税金のお陰でここまで生活できてきたので、何か恩返しをしなければ…として動き始めました。

活動内容は環境美化・保全活動全般。今まで個々で活動していた方々に呼びかけ有明ボカシの会を設立し、特に国道251号線沿いの清掃や、ゴミの減量、生ゴミなどを燃えるゴミに出さないようにする等の活動を始め、現在の会員数は正会員50名と賛同会員約200名。毎年約100日間活動して

おり、延べ参加者は年間約2千人を越え、活発に活動しています。

特徴は、除草した草や生ゴミなどを発酵させ肥料を作り、農薬や化学肥料を使用しない野菜作りを行うところ。ゴミを活かして野菜作りを行うという循環型の環境維持活動を通じて、地域の子供達から高齢者の方が、同じ目標である「ゴミ減量を目指すことにより、食育や環境問題の解決につながる」と考えています。また、毎年その野菜を使った試食会を開催するなど、楽しみながら活動することにより、より良い「コミュニティ」をつくり、地域に貢献ができる活動を続けていければと思っています。



清掃活動の参加者へ説明する荒木さん



生ゴミと除草した草を使った肥料作り



二重の峠からの眺め



参勤交代の道・九州横断徒歩の旅

わたしの好きな道

豊後街道 二重の峠

～石畳の坂道を一時間かけて登る感激～

私は今までに歩いたことのない九州横断125キロを歩く旅に参加しました。大学生の私は参加者の子供たちの引率リーダーとして93名の子供たちを安全に歩かせ道中の宿泊地や休憩地などの確認など半年ほど準備してきました。8月15日熊本城に集まった参加者と一緒にバスで大分市鶴崎へ移動し16日から歩いて出発します。朝5時に起床して6時に歩き始め毎日20キロの豊後街道を歩き熊本城まで歩きます。歩いて初めて知ったことですが参勤交代時代の石畳や石橋などが多く残っています。その一つに阿蘇外輪山に二重の峠石畳があります。阿蘇神話に健甕龍命が、阿蘇が湖だったころ湖を蹴破って水を出し田んぼを作ろうと考え足で蹴るも山が二重で蹴破れなかったと言われる二重の峠難所です。

私も毎日歩き参加者全員を無事に歩かせることに気が張ってカラダは疲労困憊です。そして6日目いよいよ二重の峠を登ると明日は保護者待つ熊本城ゴールです。石畳を約1時間かけて峠に登ると参加者全員が出迎え一瞬にして疲れも吹っ飛び大粒の涙が溢れました。私にとって豊後街道歴史の道は一生忘れることのできない思い出の道になりました。7日目に熊本城天守閣にゴールすると保護者の方たちの温かい出迎えをいただきました。子どもたちも歩き通すチャレンジで大きくたくましく成長しました。

大学生ではありませんが93名の命を預かり炎天下の125キロを歩くことは私にとってこれまで生きてきた中で最大のチャレンジでした。自分のことだけの生活から人のために役に立つことができることを学んだ一週間でもありました。大学では児童教育専攻しています。卒業したら九州横断の道を歩いた感動を役に立てながら小学校の先生になりたいと思っています。

プロフィール

木村 晴香 (きむら・はるか)

九州ルーテル学院大学3年生。大学1年のころより、「NPO法人 自然を愛する会」(JOC) 下部組織である大学生キャンパリーダー部会「キャンパス」に所属。青少年ボランティアスタッフとして、「参勤交代・九州横断徒歩の旅」ほか、さまざまな活動に参加、活躍している。

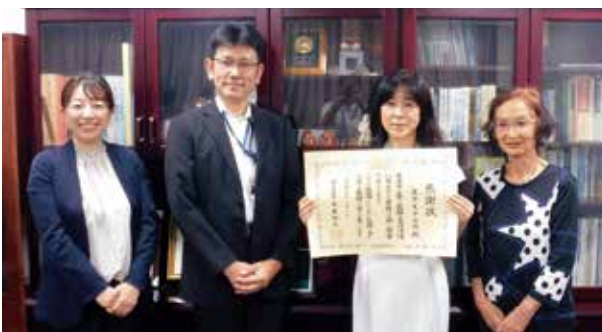


道守大分会議が「国土交通大臣表彰」を受賞!!

令和5年度「道路ふれあい月間」における道路愛護団体等の国土交通大臣表彰を、「道守初」で受賞しました。

大分県内各所を拠点とする道守大分会議は、各団体をまとめ、清掃活動や花植え活動を実施してきました。その成果を評価していただけたことに感謝します。

これを糧に、道守活動に関わる方が、道に興味・関心を持ち、新しい仲間となつて輪が広がり、さらに地域社会へ貢献できるよう働きかけたいと思います。



大分河川国道事務所・河崎所長より感謝状を受領いたしました

横顔

道路部長 三保木 悦幸氏



「道守九州会議が発足して20年目の節目を迎えました。設立当初より支えて頂いている皆様に感謝するとともに、今後道守活動を継続して行くため、皆様と共に道守の取組を維持、向上させる仕組みを考えて参りたいと思います。」

◎今年のみちづくし大会は大分の竹田市で10月27日と28日開催されます。道守が発足して20年目を迎え、「これまでとこれから」について皆さんと意見交換したいと思っています。

大分で3巡目の開催は、是非地方都市「竹田」でと、竹田市在住の堀幸子さんの熱い思いに満ち溢れた大会となることでしょう。滝廉太郎の代表作「荒城の月」に思いを馳せながらのみちづくしを堪能いたしましょう。

◎巻頭インタビューは、7月に着任された森戸局長を訪ねました。九州勤務は初めてとのこと、インタビューの二人は緊張気味でしたが、初めに「ほぼ九州人です」の言葉に親近感がわき、時間を忘れるほどの和やかなインタビューとなりました。

また、「サイクルツーリズム」や「ほこみち」など新たな道についての施策もご紹介いただきました。局長は、みちづくしにご参加いただきますので、鹿児島や伊万里にご縁のある方は親しくお声をかけられてはいかがでしょうか。

◎来年の2月に道守発足20周年を迎えます。道守九州会議では、20周年記念号を発行する予定で、編集内容を企画しています。道守の皆さんの中で、取り上げてほしい内容がありましたら、事務局までご意見をお寄せいただき、素晴らしい20周年記念号を目指します。是非ともご協力をお願いします。

道守通信 編集後記

～道守を支援いただいている賛助会員の皆様(団体・企業)～

※順不同

一般社団法人 九州地域づくり協会	九州国道協会	(一社)プレストレストコンクリート建設業協会 九州支部
一般社団法人 日本道路建設業協会 九州支部	一般社団法人 大分県建設業協会	一般社団法人 佐賀県建設業協会
一般社団法人 鹿児島県建設業協会	一般社団法人 熊本県建設業協会	一般社団法人 長崎県建設業協会
一般社団法人 福岡県建設業協会	一般社団法人 宮崎県建設業協会	大分県道路利用者会議
株式会社大林組 九州支店	鹿児島県道路利用者協議会	鹿島建設株式会社 九州支店
九州電力株式会社	熊本県道路利用者協会	建設サービス株式会社
佐賀県道路愛護協会	清水建設株式会社 九州支店	大成建設株式会社 九州支店
長崎県道路協会	長幸建設株式会社	西日本高速道路株式会社 九州支店
日新興業株式会社	福岡北九州高速道路公社	福岡県道路協会
福岡市道路利用者会議	宮崎県道路利用者協議会	株式会社九州建設マネジメントセンター
九州技術支援協議会	株式会社熊谷組 九州支店	西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
西日本高速道路メンテナンス九州株式会社	阪神高速技術株式会社	小田開発工業株式会社
サンコーコンサルタンツ株式会社 九州支店	日本振興株式会社 九州支店	アイレック技建株式会社 九州支店
旭建設株式会社	朝日テクノ株式会社	株式会社 新井組 九州支店
株式会社安部日鋼工業 九州支店	株式会社安藤・間 九州支店	株式会社アジア技術コンサルタンツ
株式会社アップス	朝日工業テクノス株式会社	朝日開発コンサルタンツ株式会社
いであ株式会社 九州支店	鳥城塗装工業株式会社(九州支店)	Fe石灰技術研究所
NTTインフラネット株式会社 九州事業部	株式会社エスケイエンジニアリング	株式会社エンジニアプランニング
株式会社エイト日本技術開発 九州支店	株式会社エスイー 九州支店	扇精光コンサルタンツ株式会社
大分瓦斯株式会社	大分県建設業協会 大分支部	大分県道路舗装協会
大分交通株式会社	株式会社大島造船所 九州営業所	株式会社萩島組
株式会社オリエンタルコンサルタンツ 九州支店	株式会社岡崎組 勝盛会	鹿児島土木設計株式会社
株式会社柏木興産	株式会社片平新日本技研 福岡支店	株式会社カンドー
上内電気株式会社	川田建設株式会社 九州支店	株式会社ガイアート 九州支店
一般財団法人 橋梁調査会	九建設計株式会社	九州建設コンサルタンツ株式会社
九州地区道路利用者会議	九州みちの会	協同エンジニアリング株式会社
株式会社橋梁コンサルタント 西日本支店	株式会社九州開発エンジニアリング	九州環境管理株式会社
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 九州支部	株式会社建設環境研究所 九州支店	株式会社建設技術研究所 九州支店
株式会社建設技術センター	株式会社建設技術コンサルタンツ	株式会社鴻池組 九州支店
株式会社国土開発コンサルタント	株式会社コバルト技建	コーアツ工業株式会社
株式会社駒井ハルテック 九州営業所	一般社団法人 佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会	西部ガス株式会社
株式会社サタコンサルタンツ	株式会社西海建設	株式会社島田設計コンサルタント
株式会社親和コンサルタンツ	新成建設株式会社	株式会社新日本技術コンサルタント
昭和コンクリート工業株式会社 九州支店	JR九州コンサルタンツ株式会社	株式会社ジャストエンジニアリング
株式会社西部技建コンサルタント	株式会社センコー企画	株式会社そよかぜ館(「道の駅大和」)
有限会社測量企画センター	株式会社総合技術コンサルタント 九州支店	瀧上工業株式会社
多久市そうじの会(多久の未来を創る会)	宅島建設株式会社	谷川建設工業株式会社
株式会社高山組	株式会社玉の湯	太陽技術コンサルタンツ株式会社
第一生命保険株式会社 佐賀支店	大日本コンサルタンツ株式会社 九州支店	大福コンサルタンツ株式会社
株式会社長大テック 福岡支店	中央コンサルタンツ株式会社 福岡支店	中央復建コンサルタンツ株式会社
株式会社長大 福岡支店	通信土木コンサルタンツ株式会社 九州支店	株式会社友岡組
株式会社東豊開発コンサルタント	株式会社友岡建設	東急建設株式会社 九州支店
東洋技術株式会社	戸田建設株式会社 九州支店	利光建設工業株式会社
株式会社地域科学研究所	株式会社東亜コンサルタント	株式会社東京建設コンサルタント 九州支店
株式会社 中村緑地建設	南生建設株式会社	株式会社名村造船所 福岡営業所
株式会社西九州道路	株式会社西田技術開発コンサルタント	株式会社日建コンサルタント
西日本建技株式会社	西日本コンサルタンツ株式会社	西日本コントラクト株式会社
日本乾溜工業株式会社	日本工営株式会社 福岡支店	日本地研株式会社
西日本技術開発株式会社	日鉄鉱コンサルタンツ株式会社 福岡支店	日本軌道工業株式会社
株式会社野村建設	葉陽会道守部会	株式会社萩原技研
パシフィックコンサルタンツ株式会社 九州支店	株式会社東九州コンサルタント	株式会社日高本店
株式会社ピー・エス三菱	福地建設株式会社	復建調査設計株式会社 九州支店
株式会社福山コンサルタント	株式会社富士設計	株式会社富士ピー・エス
株式会社ぶげん街づくり会社(「道の駅」豊前おこしかげ)	株式会社丸福建設	前田建設工業株式会社 九州支店
松尾建設株式会社	松本技術コンサルタント株式会社	株式会社末宗組
株式会社三原建築設計事務所	みちを考える会	宮崎空港ビル株式会社
宮地エンジニアリング株式会社 福岡営業所	有限会社道の駅みえ	株式会社宮崎産業開発
株式会社水野建設コンサルタント	村本建設株式会社 九州支店	八千代エンジニアリング株式会社 九州支店
株式会社ヤマウ	株式会社ヤマックス	株式会社横河ブリッジ 福岡営業所
龍南建設株式会社		

個人会員66名

「道守九州会議」事務局



発行 「道守九州会議」

広報誌「道守通信」秋号
令和5年10月発行

■道守支援室(九州地方整備局道路管理課内)
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

■(一社)九州建設技術管理協会内
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/>

e-mail michi-kima@kyugikyoo.or.jp